NPO 法人ア

トピッ子地球の子ネットワーク

東京都新宿区

どの大量調理が中心であり、

食物アレル

大規模な避難所の食事の多くは、

豚汁な

公的支援が行き届いていない避難所に移

への個別対応が難しい。そのため、

らなければならなくなったケースも少な

くないのだという。

「避難所に栄養士さんが常駐してい

みそを溶く前に食物ア

レルギー

用に

汁を小分けしておく、

小鍋で別につくる

ゆやみそなどの調味料をとることもアナ

ラキシーにつながる可能性がある。

小麦アレルギー

などがあると、

への支援を積極的に行なっていきまし

ったこともあり、

そうした個々の人たち

一難所に 見えない栄養 患児へ 支援が 望まれる

その1つ、NPO法人アトピッ子地球の子ネットワークの支援活動を取材した。東日本大震災発生後、三浦医師の報告にあったようにさまざまな組織が一斉に食物アレルギー患児への支援に動いた。

不休で行なった被災者支援食べるものがない!

していただけるようお願いをしました」

カーに、

片っ端から電話をかけて提供

貼って情報を広めようとしました」

家は流されなかったがインフラが回復

ガソリンもなくて食べるものが底

周知に努め

のポスターをつくり、さまざまな場所に を活用して告知しました。また、約千枚 ニュース、ラジオ、新聞などのメディア りに行ってもらうようテレビのテロップ

同ネッ

学生が行き交う商店街の一角にあるビル 子地球の子ネットワーク」は活動をして の一室を拠点に、NPO法人「アトピッ 東京都新宿区西早稲田、 早稲田大学の

食べられるものがなくなってしまうこと 援のためのさまざまな活動を展開してい 赤城智美さんは言う。 同ネットワー に物資を運ぶためのトラックを要請し、 が予想されたため、 くことだ。今回の東日本大震災に際して つ患者とその家族を対象として、 目的はアトピー・ 同ネットワ レルギー用の物資を2回搬送したと、 被災地で食物アレルギ クの事務局長で専務理事の ク アレルギー の設立は1993年 発生当日にすぐ政府 - 患児たちが -性疾患をも 生活支

やマスクなどを供給している医療機器メ を除去した食品を販売しているメ 「3月11日からの4日間は、 ア レルゲン カ

てくると、

2日間休

ックの運転手は戻っ

トラ

NPO法人アトピッ子

地球の子ネットワークが作成したポスター



メーカーなどから提供されたアレルゲン除去食品の数々

2人のドライ

確認。 支援物資をかき集 め同ネットワー 仕分けをする。 と連絡を取りながら 間にメンバーは再び 配って回った。その 眠で被災地の拠点に ながら約2日間、 ーが交代で運転し 現地の病院など

不

物資を対象者の人数に合わせて細かく仕 のような人たち。協力に名乗りを上げて 自己完結型のボランティアスタッフの鏡 で自分の身の安全を守ることができる、 くれた。トラックの出発前に、 ラックを運転したのは、 約半日かけて積み込みと配送先を トワークが独自に7回搬送した クのメンバー総出で支援 リタイヤ世代 あらかじ ました。 入った。 ていた食物アレルギ 救援物資の要請が被災地のあちこちから てはいるものの、食物アレルギー対応の てきたばかりの子ども……。 キシーを起こし、 をついた家族。誤食によってアナフィラ 「被災地の状況は刻一刻と変化していき 当初、 病院に搬送され退院し

大規模な避難所で生活し 患児とその家族

まずはご相談ください! アレルギー用の物資を 無料提供します 食物アレルギー用の食物、ぜんそく、アトビー性皮膚炎のケア用品など 必要なものを無料で提供します。 ※来年(2012年)3月まで実施予定 03-5948-7891 ●Mail: yoshizawa@atopicco.org NPO法人アトビッ子地球のテネットワーク 〒169-0051東京都新宿区西早稲田1-9-19-207 「NPO連携】GANBARO「MYAGI/宮城復興支援センター市民キャビネ小災害支援部会、各地のアレルギー患者団体 ・ ボランティア米沢 他 2011

でしょう 対応をしていただけたのではな

食生活のアレルギー患児も未だに被災直後と同じ

(株)らでいっしゅぼーやが支援物資の中継場所として

本社エレベーターホールを提供してくれた

議所の青年部の方々から、

小規模な避難

のご家族の情報も入るようになりまし

4月になると宅配便が届くようにな

うになりました。また、被災地の商工会

たお宅から救援要請の電話をしてくるよ

身を寄せ

全員で米麺を食べてもらうように対応を お願いしている。 などのために、米麺などを避難者分送り、 避難所で生活する小麦アレルギー 同ネッ ワ クでは数十 人規模 患児

です」 なら喉ごしがよいので、高齢者にも去にご協力いただいている形です。 「避難所の皆さん全員に、 高齢者にも好評 アレルゲン 米麺

児もいるという だにアレルゲン除去食品すら入手でき びとふろふき大根だけで過ごしている患 応が可能になって 食物ア ラキシーを起こし、 地震発生から2カ月あまり、 レルギ また、 いる所がある一方、 への理解が得ら アレルゲンが増え 誤食 してアナフ 塩むす 未

みません」 ことを、

福島市の医療生協わたり病院

災害支援の拠点として支援物資を受け入れてくれた

まで継続していく予定だ。 患児への支援を、 てしまったケ クは、 こうした食物ア スもある。 少なくとも来年の3月 そのため同え レ ルギー

お願いしたいことが山ほどあります。 品の提案など、被災地では栄養士さんに 務が山積しており、 っしゃるのですが、 士さんの姿はありませ レルゲン除去の調理の工夫や代替食 残念ながら避難所に行っても栄養 業 λ_{\circ} 役場には いら L

詳しくはホームページをご覧ください。

http://www.atopicco.org

ぜひとも、

を差し伸べていただく 物アレルギー患児への 子どもたちへ支援の手 のある栄養士さんには きる状況ではありませ 個別の対応をお願いで ボランティアの志 切に望んでや 困っている 食 NPO法人アトピッ子地球の子ネットワークでは、アトピー・ア レルギー性疾患の子どもとその保護者を対象とした夏休み 教育キャンプ(8月17~20日・神奈川県立藤野芸術の家) で、調理などを手伝うボランティアスタッフを募集しています。

59 ヘルスケア・レストラン 2011.7

患児への支援活動を継続した。

「主に病院や荷受拠点となってくださる

で約1カ月間休みなく、

食物アレルギー

んでまた出発。こうして5日間サイクル

ところに物資を届け、

患者さんたちに取